

## 会 議 録

会議の名称	豊中市市民公益活動推進委員会 市民公益活動推進部会		
開催日時	令和元年（2019年）6月24日（月）19時～21時		
開催場所	市役所第二庁舎4階南会議室	公開の可否	可・不可・一部不可
事務局	市民協働部 コミュニティ政策課	傍聴者数	0人
公開しなかった理由			
出席者	委員	直田部会長、浜本委員、真鍋委員、山田委員、吉岡委員、須戸委員	
	事務局	山口部長、長坂次長兼課長、水谷主幹、大和課長補佐、小嶋係長、三上主査、清水	
議題	1. 市民公益活動推進施策の実施状況の評価について 2. その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)			

# 令和元年度（2019年度）豊中市市民公益活動推進委員会 第1回市民公益活動推進部会 議事概要

日 時 令和元年（2019年）6月24日（月）19時～21時  
場 所 市役所第二庁舎4階南会議室  
出席委員 直田、浜本、真鍋、山田、吉岡、須戸  
（敬称略）

## 議 事 概 要

### 1. 開会

開会宣言、会議公開の旨の確認、本日の案件及び資料等の確認。

### 2. 案件1 市民公益活動推進施策の実施状況の評価について

資料1：評価のとりまとめ方法とスケジュール

資料2：平成30年度(2018年度)豊中市市民公益活動推進施策実施状況報告書（案）

<抜粋>

- ・資料1に基づき事務局から評価のとりまとめ方法及びスケジュールについて説明。

#### 委員

昨年度に委員会から出した意見に対する市の回答に関し、その後の取組み状況の評価は行わないのか。

#### 部会長

今後の課題であると思うので、また報告願いたい。

とりまとめ方法及びスケジュールについて、ただいまの事務局からの説明のとおりでよろしいか。  
～異議無し～

- ・資料2に基づき、実施状況について説明。

#### ①市民公益活動への助成

#### 委員

助成金募集説明会で参加動機等は確認しているのか。

#### 事務局

募集説明会では、前半は募集要領に基づく手続き等の説明を行い、後半は、いくつかのグループにわかれて意見交換、情報交換を行っている。その中で、事業実施予定等を聞き取りしている。

#### 委員

どのような傾向にあるのか。説明会参加団体で、その年は申込みをしなかったが、次年度に申込みをしたというようなケースはあるのか。

## 事務局

募集説明会に参加されたものの、その年度に助成金に申込みを行わなかった団体が、その翌年度に申込みをされたケースはあまり無いと思う。こちらの助成金の対象にはなりにくかった等の理由が考えられる。

## 部会長

確実に申込みする団体だけではなく、ゆるやかに関心のある団体も説明会に来られるのは良いこと。

## 委員

それを次にどうつなげていくか。助成金申込み以外にも、市民活動情報サロンのサポートにつなげたり、地域との関係につなげたりできたらと思う。

## 部会長

助成金交付決定に至らなかった場合でも、助成金へ申し込むことで取組みが明確になり、自己認識も高まると思う。

## 委員

その意味で、交付決定に至らないかもしれないが、申込みをしてもらうことは大切だと思う。ひとつのステップアップになる。

## 委員

関連して、助成金公開プレゼンテーションへの参加を促進し、さらに多くの市民に聞いてもらうことにも意義がある。公開プレゼンテーションの参加者数について、平成 30 年度分が 114 名、平成 31 年度分が 55 名の参加者数で、人数が減ったことに何か理由はあったのか。プレゼンテーションの発表団体数の違いだけなのか。関わった人には勿論のこと、関わっていない人も発表を聞いて触発されることがあると思う。参加者を増やす工夫が必要かもしれない。

## 部会長

公開プレゼンテーションに進んだ団体数の違いはあるだろうが、減った原因が気になるところである。

## 事務局

会場への行きやすさも要因の一つかもしれない。ただし、開催場所については、様々な方に来てもらえるよう、市内の北部、中部、南部と変えるなど工夫もしており、多くの市民が利用する図書館の集会室で開催したこともある。勿論、発表する団体数による違いも考えられると思う。

## 委員

いろいろな場所で開催するほうが、関心を持つ層が広がると思う。そのため、単純に人数だけの比較ではないということも、実施状況報告書には書いたほうがよい。

## 委員

先日開催された昨年度の助成金交付団体の報告会では、団体同士で連携をしたことや、今後連携していきたいとの話が聞かれた。団体間の情報交換や交流会の実施は、昨年度新たに行ったものだったのか。

## 事務局

助成団体対象に、年度当初にオリエンテーションを実施していたが、昨年度はそれ以外に、年度

の中頃に中間オリエンテーションを実施した。これは、団体同士の交流の機会とすることと、助成金の最終報告書作成に関しての中間確認として開催したものである。これによって、団体同士の交流も深まったと思う。

#### **委員**

全団体が参加しているのか。

#### **事務局**

全団体に案内しているが、それぞれご都合もあり、全団体が同じ日程に集まることは難しかった。

#### **委員**

初動支援コースで交付決定され、その後、継続して初動支援コースに申込みされる団体と、1回のみで終わる団体とがあるが、その差は何か。1年で自立するとは考えにくいので、複数年度助成金を受けてから自立に進むほうが、着実に発展されていると感じられる。

#### **事務局**

市以外の助成金に採択されたケースや、事業展開の関係で豊中市外で実施することになったため申込みされないケースもある。また、自主事業コースのレベルまでの活動の拡充は難しいといったことで、初動支援コースのみで終わられた団体もある。

#### **委員**

市外で実施されるケースについては、大きな大会は市外の専用施設で実施することでもよいが、日常的な活動を豊中市内で実施されるように工夫していただければとの思いもある。

#### **委員**

応募団体を見ると、多様な背景がある。子どもだけではなく、多世代に関わるような背景があり、そういった社会問題への対応として事業を実施する公益活動団体が多くあると感じた。

#### **部会長**

ここ数年、社会課題の解決をテーマに掲げて取り組むものがたくさんある。対象も幅広く、豊中の市民活動の底力につながるものがあるのかもしれない。助成金制度が、そういった団体を発掘したり、後押ししたりする役割も果たしているということかもしれない。

#### **委員**

団体への支援として中間オリエンテーションを昨年度から始めたとのことであり、その点は実施状況報告書に強調して記載してよいのではと思った。他の活動と出会えることは少ないので、実際に会って話ができる場があると、お互いにとっても学びになると思う。是非、今後も継続してもらいたい。

#### **委員**

助成金交付団体の成果報告会については、団体数が多いために、発表が一部と二部に分かれていたこともあり、いずれかのみでの参加になっていたように思う。また、市民の参加も少なく、報告内容が良かっただけに残念だった。「報告会」というネーミングを、たとえば、「豊中の市民活動をみなさん聞きに来てください」というようなものにしてはどうだろうか。様々なテーマの活動が豊中市内で行われていて、それらに参加したいと思う人もいるだろうし、助成金の原資となる「とよなか夢基金」に寄付したいと思う人もいるだろうから、関係団体だけではなく、たくさんの市民が来てくれたら素晴らしい報告会になっただろうと残念に思った。

## 部会長

興味があっても長時間となると参加しづらいということもある。

## 事務局

実施後、ケーブルテレビのニュースでも放映された。報告会の内容を映像に残して市民の皆さんに見てもらえるような方策を、今後検討していきたい。

## 部会長

10 分間の枠で報告するのとは違う方法も考えられる。1 団体 3 分間ぐらいで報告を済まして交流会に移るといった方法等を、検討してもよいかもしれない。

## ②市民公益活動基金「とよなか夢基金」

### 委員

「今後に向けての課題」のところで、「助成金予算額の目標額達成に向けた寄付募集の実施」とあるが、助成金の予算額はどうなっているのか。目標とする金額を、可能ならば出してもらったほうがよい。

### 事務局

これまでは毎年度、助成金の予算額として 250 万円を確保しており、それをめやすとして寄付を募集していると思うように修正したい。

### 委員

今後に向けての課題として、個人のみならず企業にも寄付をしてもらいたいということはあると思う。もちろん金額も大事だが、件数こそ重要だと思うので、件数を増やしていくことに的を絞るべきではないか。250 万円という金額だけがめざすものとなって、件数が少なくてもよいという考え方になってはいけないと思う。

### 部会長

件数が多いほうが、金額面で安定するということもある。

ここ数年、プロモーションを頑張っているように思うが、PR のための発行物等の経費はいくらぐらいなのか。

### 委員

基金からの支出なのか。

### 事務局

一般財源からの支出である。平成 29 年度決算では、消耗品費として約 13 万円、印刷製本費で約 33 万円の執行となっている。

### 部会長

最近、寄付に関して、遺贈という方法も注目されている。民間の団体でも寄付を集めたいと思っている中で、市がそちらに乗り出すことがどうかという点もあるが、将来的には考えていかないといけないだろうと思う。

### 委員

市のほうが遺贈先になりやすいのかもしれない。

### 部会長

プロモーションで、小口の寄付をいかに広げていくか、考えてもらえればと思う。

## 委員

毎月一定額の寄付を継続されている人もおられる。

## 事務局

PRの意味も兼ねて、イベント時には募金箱を設置している。

## 委員

先ほどの、件数が大切との指摘は、そのとおりだと思う。いかにPRしていくかが大切になる。

## 部会長

ふるさと納税の制度に該当する割合はどのぐらいか。

## 事務局

募金箱への寄付は対象とならないが、個人の方からの寄付は、基本的に全てがふるさと納税制度の対象となっている。

## ③市民公益活動団体との協働

### 部会長

まず提案公募型委託制度について、市からの募集件数は年度によって異なっているが、提案公募型委託制度に基づく募集を出した場合は、必ず応募があるのか。

### 事務局

平成28年度に、募集に対して応募が無かった事業があったが、年度内に再度募集をかけて、最終的には委託先が決定した。それ以降は、応募が無い事例は無い。

### 委員

提案公募型委託制度と公募型プロポーザル方式とで何が違うのかわかりにくい。事業者側からは、公募型プロポーザル方式のほうがわかりやすい。また、提案公募型委託制度を各部局が使いづらいているのかもしれない。

### 事務局

提案公募型委託制度を創設した当時は、公募型プロポーザル方式は一般的ではなかったが、その後、各課で活用されるようになった。

提案公募型委託制度を当初から活用している部署では、継続してこの制度で募集を行っているところもあるが、そういった部署が一部にとどまり、庁内で普及していないのかもしれない。

### 部会長

提案公募型委託制度での委託は、協働事業であり、基本的には公募型プロポーザルは協働事業ではない。協働事業にはやりにくさもあるけれど、成果が上がる可能性もある。わざわざ仕事を作る必要はないが、必ず行っていくべきテーマに関して、行政のみで進めづらいもので、協働であれば前に進むものがある。そういったテーマを行政がいかに探すか。

次に、協働事業市民提案制度に対する意見をお願いしたい。

### 委員

協働事業市民提案制度の活用に関して問題になっているところをどうするのか、非常に難しいと思う。

### 委員

どちらかといえば提案公募型委託制度は、単なる委託業務のように見えてしまう。協働に関して一般的な公募型プロポーザルとどの程度異なるのかわかりにくい。また、行政と協働したことによって、より成果が上がっているのかどうかかわかりにくい。協働としての効果が上がるのなら、制度として残しておく必要性があると思うが、そこが見えにくい。

協働事業市民提案制度でも、今回仮申込みはあったが、成案化には至らなかった。どのあたりが問題になって成案化に至らなかったのかわからないと、今後提案しようとする団体にとってもポイントがわかりづらい。

#### **委員**

協働の文化づくり事業で行われている協働の学びの場づくりに、一般の方も広く参加できるようなイベント等が増えたら良いと思う。

#### **委員**

豊中に協働の文化が豊かに広がっていくというイメージを持って、協働の文化づくり事業で制度のあり方に関する調査検討を進めていると思うが、一つの制度に固定化するのではなく、いろいろな連携、協働の仕方があったほうが良いと思う。制度ができてから年数が経っているので、制度の見直しがあってもいい。

自分たちが教育委員会から受託している「原田城跡・旧羽室家住宅 管理運営業務」は、協働の制度に基づいているものではないが、教育委員会との協働や連携がないと進めていけないものである。そういった、この制度に基づかない協働事業がどのくらいあるのか知りたい。

#### **委員**

豊中市は先行して協働の制度を作ったが、後から制度を作った自治体のほうが、活発に協働の提案事業を実施していて、豊中のほうが制度疲労になってきているのではないかと。制度の目的と実情がずれてきている。立場の異なる組織や、様々な人たちが、互いに強みを活かして社会的課題を解決していくための制度であると思うが、複雑化した課題が多くなり、この制度だけでは解決できない気がする。協働の文化づくり事業でも、意識してもらいたい。

昨年度、委員会から、ハード面の環境整備での協働事業に関して意見を出しているが、どのように取り組んでいるのか知りたい。

#### **部会長**

提案公募型委託制度がわかりにくいのは、協働事業としてどう動いていくのかわかりにくいということではないか。助成事業は報告会をしているが、協働事業に関しては市民向けの報告会が無い。

#### **委員**

当初は実施していたと思う。

#### **部会長**

協働事業の中で、NPOの役割、行政の役割が明確に見えるように報告され、つながることでプラスアルファの成果が出てきたことが整理されるといい。「見える化」の積み重ねが大事。豊中市は、数年前に協働の冊子を発行し、その中に事業の経過や分析を掲載していた。これは市のホームページで見られるのか。

## 事務局

市ホームページでの掲載はしていない。

## 部会長

取り上げた団体への確認を済ませれば、掲載しても問題ないのではないかと。

報告会に関しては、成果の評価をしていることが必要。

協働の文化づくり事業で、良い成果が出ることを期待している。また、委員からの意見にもあったように、もう少し市民に開かれた形を取ってもよいと思う。

制度の抜本的な見直しが必要かもしれないとの意見があったが、他市で何か面白い事例はあるか。

## 委員

米原市で取組みが進んでいる。

## 部会長

伊丹市でも、地域自治組織と行政との協働事例が出てきている。豊中でも地域自治組織との協働の可能性もある。

## 委員

助成事業の枠の中で検討するということもあり得る。

## 部会長

地域自治協議会は、包括的な地域全体の自治をカバーしていくような団体であるべき。地域の課題に取り組むための協議体として動くなら、行政との連携や協働は大きな役割を占めるかもしれない。

協働事業市民提案制度に関して、平成 31 年度に向けた仮申し込みは、成案化に向けた動きには進まなかった。コミュニケーション不足もあるだろうが、情報がきちんと出ていれば、足りないと思うところに対しての提案が出てくる。情報が足りなかったり、情報が出ていても理解されていなかったりすると、同じような議論になってしまう。情報の問題と大きな関連性があると思う。そのあたりも協働の文化づくり事業で議論してもらえればいい。

協働の制度は、今の段階では、よくできたものだと思う。抜本的に見直すというよりは、地域の情報をいかにプラスするかではないか。これまでと違った形のやり方があるのではないかと。また、協働の相手方も、NPO だけではなく、公益団体や学校等、様々なところが絡んでくる可能性がある。門戸を開いておく必要もある。

## 委員

長く実施してイメージが付いてしまっているところがある。そのイメージをお互いに払拭していかないといけない。変えていくためには、提案公募型委託制度と協働事業市民提案制度がめざしているものを、再度発信しないとイケないのかもしれない。制度を変えない場合でも、運用の仕方を変更することもあるかもしれない。

## 事務局

協働の文化づくり事業で検討する中でも、事業の先にある市民や社会にどんな成果が届いているのだろうかと感じている。自己満足に終わらず、評価、振り返りをどうしていくかが鍵だと思う。成果を届けられていなければ 1 年間でリセットして次の展開を考えていく必要があるかもしれない。検討を進めていきたい。



## 部会長

制度疲労はあるかもしれないが、それに変わる制度が今すぐ見えてこない。評価ができていないことや報告会が無いといったことは、協働事業に限らない。行政評価は、これまで協働のセッションではあまり語られなかった部分だが、いくつかサンプリングして行政評価の発表会をやっても面白いかもしれない。奈良県吉野町でそういうワークショップの事例がある。

提案公募型委託制度で公募した事業に、株式会社が委託先となっているものもあるが、役割分担や成果の評価を是非聞きたい。企業が協働事業に入ってこられるのは、社会的課題に対する思いがあるからだと思う。

成果がもう少し広く市民に見え、最低限庁内で共有されるようにしてほしい。そこから次のステップの改善の方策を考える。現実的に何か見える形で小さい一歩でも前に進むと、次の方向性が見えてくるかもしれない。

本日の意見をまとめると、助成金については堅調に動いている。それを大事にしてのばしていきたい。説明会、プレゼン、報告会の3段階の参加とそれを広報する機会があるので、それを活用していく。その中でコラボレーションが生まれる可能性がある。また、審査等で貴重な意見が出されている。出された意見をフィードバックして前に進めてほしい。

基金についても堅調。金額だけの問題より、いかにたくさんの人から寄付をいただけるか。寄付という行為を通じて、市民活動あるいは市の課題に対して市民が深く知って、何らかの関わりを持っていただくひとつのきっかけにもなる。そのために、いろいろな仕掛けが必要。

協働については、協働事業の結果が見えるかたちで、それがどうだったかきちんと評価しながら次のステップに進む。協働の文化づくり事業に大いに期待。制度疲労もあるかもしれないが、今の仕組みを深め、活用していく。使いやすくするためにプラスアルファできることは考えていく。地域における地域自治協議会との協働には、これまでにない枠組みがいるのではないか。研究の必要があると思う。

本日の意見は、次回の市民公益活動推進委員会で報告することになる。

## 3. 案件2 その他

### 事務連絡

○第2回市民公益活動推進委員会

日時：7月23日（火）午後7時から 場所：市役所第二庁舎3階会議室

## 4. 閉会